

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193100476		
法人名	株式会社 オレンジサポート		
事業所名	グループホームひばり		
所在地	北海道上川郡東神楽町北1条東2丁目11番5号		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成27年4月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0193100476-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひばりでは、食事・イベント（ひばりまつり・海へドライブ・クリスマス会等）・家族との交流に力を入れております。その中でも、ひばり通信・ホームページによる開示には力を入れております。ご家族様へのサービスに関しましては、ご家族様の代行等のサービスも充実させてます。ご利用者様が安心して生活を送ると同時にご家族の方の負担軽減・安心の提供に全力を尽くしています。さらには、医療機関との連携にも力を入れ、歯科医・内科・精神科の往診も充実しており、常にDrに相談できる環境を整えております。これからも、職員の力を最大限に発揮できる職場づくりとスキルアップするための研修・勉強会を実施し、ご利用者様に合ったケア・ご利用者様中心のケアを目指し努めていきたいと考えております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北 1 条西7丁目1番あおいビル7 階
訪問調査日	平成 27 年 3 月 19 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、運営法人が東神楽町に恩返しをしたいと、福祉社会の実現に向けて開設し5年が経過しています。運営法人の役職者が地元出身ということもあり、開設準備段階から地元の方々が花壇整備や介護を含めた相談で立ち寄るなど、自然体で近所付き合いが継続されています。職員は、利用者や家族は元より地域との関係性も大事にしています。ホームに対して家族や地域の方々からの理解や支援に感謝を込めて、9月に「ひばり祭」を開催し、総勢250名程が一堂に会しています。人材育成に重点を置いている運営法人のバックアップを得て、職員は利用者を人生の先輩と敬い、自分自身の身内に置き換え利用者の望む暮らしを支援したいと、日々、自己研鑽に励んでいる「グループホームひばり」です。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームでは、「ゆっくり」傾聴・「やさしく」受容・「ともに」共感を独自の理念として職員が常に見れる場所に掲示し、共有しながら日々実践している。	開設時に、ホームを通して出会う全ての方々に向けたメッセージとしての理念を策定しています。職員は、日々の業務で理念の実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏は、毎日のように屋外へ散歩などで出かけ、地域の方々とふれあう機会を設け、ひばり最大イベントである「ひばりまつり」では、沢山の町民の方が参加して下さっている。そのことで事業所自体が地域の一員として交流している。	運営法人の役職者が地元出身であり、開設の準備段階から地域の方々とは自然体で交流が構築されています。町や町内会、ホームの行事にはそれぞれに参加があり親交を温めています。職場体験で訪れる中学生との触れ合いもあります。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	H24年度は、町民の皆様からの相談が多々あり、その相談を随時対応させていただいている（認知症高齢者の相談をはじめ、機能訓練をして在宅復帰を目指している方の相談等）。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームでは、イベントの際に運営推進会議を一緒に開催している。その際に実際の現場の状況をたくさんの方々に見ていただき、意見を聞いて参考にさせていただいている。また、その際に入居者様と触れ合っていただくことで当ホームがどういう所であるか知っていただく機会としている。	ホームの行事時に家族会を数回開催しています。その中でホームの現状を報告し、その後に出された意見や要望を収集しホーム運営に生かしており、運営推進会議として位置づけています。	運営推進会議は、利用者、家族、地域住民の代表、行政職員、地域密着型サービスの知見者を構成員として、ホームの質の確保を図る事を目的としていますので、定期的な開催への取り組みに期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に大雪広域連合に訪問し、情報収集・相談等を行っている。また、わからないことは、東神楽町役場をはじめ、大雪広域連合に連絡し、常に解決している。	行政担当者とは各種報告やホームの課題に対して情報や意見交換があり、出された助言を改善に繋げています。ケースワーカーの訪問もあり、情報を提供したり、相談事を話し合い協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が理解しており、夜間帯以外は玄関の施錠はしていない。徘徊のある入居者様には常に職員が見守り・付き添い、ケアさせていただいている。	身体拘束防止への取り組みとして、外部研修に参加した職員による勉強会、資料やマニュアル等で禁止の対象となる具体的な行為の理解に繋げています。管理者は、職員の正しい理解に繋がるよう声かけをしています。	
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しては、積極的に研修に参加し、学ぶ機会としている。その知識をもとに随時対応・指導をしている。また、研修会参加後は、月1回のミーティングで研修内容を報告し、職員に周知・徹底している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護に関して理解しているが、職員に学ばせる機会は設けていない。今後定期的に行う勉強会の内容として取り入れていき、職員が知識を得て、活用することで、より良いケアを実践できるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前のホーム見学を重視し、十分な理解と納得をしていただいた上で入居していただいている。解約時は、ご本人様・ご家族様との話し合いを十分に行い、相互理解を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が面会に来られた際に、意見・相談・要望を随時伺い、サービス向上に努めている。	職員と利用者は何でも話し合える関係にあり、その都度の要望に対応しています。家族からは、これまで感謝の言葉ばかりですが、出された意見には迅速な解決に向けた態勢を整えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、申し送り時に意見・相談を受け対応している。また、月1回のミーティング時に運営上のトラブル回避のため、現状の確認・意見等を聞き入れ、反映できるものは反映している。	代表者や施設長、管理者はシフトには入っていませんが、職員と一緒に利用者を支援しており、全体像を把握しています。物品の購入時には、現在ある物で対応できないかなど、課題は常に全体会議で検討しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表はじめ施設長・管理者・主任が交代で常に出勤し、職員の要望にしっかり耳を傾け、やりがいのある職場環境作りに努めている。その他個人的に相談のある職員に関しては、随時相談を受け対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や講演会に随時参加してもらうようにし、その内容を定期的にミーティングで職員に周知することでスキルアップを目指している。また、職員ひとりひとりがスキルアップできるように日々のケアで改善点があれば、その場その場で指導するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、他施設との交流の機会があれば積極的に参加している。また、他施設の勉強会にも参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談時にご本人様の希望を傾聴し、安心の提供と信頼関係を築いている。また、傾聴するだけではなく、希望に添えるよう努力し、絶大な信頼確保に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面談時に、ご家族様の希望を伺い、安心の提供と信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期面談のアセスメントを通じて、必要な支援を見極め、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員ができるだけ入居者様の近くにいる機会を作り、日常的な話をしたり、昔のお話をうかがい、色々な知識等を教えて頂く機会を作ることでともに暮らしている関係を作るようにしている。また、日常生活動作以外でも本人が出来ることはいろいろとやっていただくことで生きがいや自信を持ってもらえるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出やイベント時にご家族様に協力して頂けるように要請し、参加して頂くことでご家族様にも入居者様をともに支えているという関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から使用されていた馴染みの理美容院へ行ったり、医療機関に受診したりして、以前生活されていた地域との関わりを途切れないようにしている。また入居者様のご家族様だけではなく、知り合いや友人の面会も歓迎し、馴染みの人との関係を維持できるようにしている。	利用者にとって地域全体が馴染みの関係になっています。職員は友人や知人の来訪を歓迎し、また、馴染みの理美容室や出身地への同行支援、道外に居住する身内の訪問には空港への送迎など、入居以前の関係性を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員は、閉じこもりがちな入居者様には声かけし、ホールなどで入居者様同士が交流できる機会を多く設けるようにしている。また、入居者様同士の会話の間に入ることで、会話を楽しんでいただけるように橋渡しをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、退居なられた入居者様に関しては、医療機関へ出向いてのフォローや情報提供に努めている。また、施設を探されている時には、積極的に施設探しを支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、情報収集をし、ご本人様の希望・意見を傾聴し、改善等努めている。また、ご本人様から情報収集が困難な場合は、ご家族様から情報収集を行うことで、入居者様の希望や意向の把握に努めている。	利用者が役職者や職員に気軽に要望を伝えられる関係が築かれています。意思表示が困難なときには関わりの中で得られた気付きや家族からの情報、生活歴から推し測っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他施設・医療機関を利用されていた方にはその利用機関から情報提供書をいただき、利用されていない方に関しては、ご家族様から情報収集して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	初期アセスメントで今までの生活をご本人様、ご家族様や以前利用されていた施設から情報収集している。また、また日常のケアの中で随時状態を把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様との話から希望や意向を伺い、また朝礼や引き継ぎノートを活用し、チーム内で随時意見交換をしている。また定期的にモニタリングを行い、その結果を介護計画に反映することで、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、利用者や家族から暮らし方の要望を傾聴し、医療関係者の意見を参考に日々の関わりで積み重ねた情報や職員の気付き、意見を生かして作成しています。介護計画や理念を意識した支援に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を毎日入居者様ごと個別に介護記録を残している。ケアさせていただく際にその記録の内容を把握した上で実践している。また、介護計画のモニタリングにも記録を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様との対話の中で発生したニーズに対しては、既存のサービスに捉われずに送迎などできることは施設で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、連携を図るよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診と利用前から利用されていた医療機関を利用し、随時ご家族様に報告し、納得していただいている。また、協力医でなかった医療機関に関しては、協力医になっていただいている。	かかりつけ医や専門医への受診は、職員が支援しています。緊急時は、家族に同行をお願いしています。協力医の往診体制も整備しており、利用者の健康状況は関係者と共有しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面に関しては、常に看護師に相談し、主治医の指示をうけている。また、直接主治医へ連絡し指示をいただいている。緊急時には、医師・看護師に連絡し、受け入れの病院をあらかじめ見つけていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった際は、情報提供書を医療機関に渡し、医療機関でスムーズに医療が受けられるよう努めている。また、頻繁に訪問し、状況を伺い、随時対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	独自の重度化対応指針を作成し、安心して生活が送れるよう努めている。ターミナルケアに関してもご家族様と相談し実践している。	利用契約時に医療体制を説明しています。重度化に対する指針と同意書を整備しています。重篤時には、主治医と家族を交えて今後の方向性を協議しています。看取りの経験があり、利用者や家族に寄り添い、質の高い支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	当ホームでは、職員全員が救命の講習を受け、事故発生時には万全の状態を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施し、災害時には他施設と連携を図るよう相談し、避難場所の確保を行っている。	消防署や防災設備会社の協力の下、年2回日中・夜間想定避難訓練を行っています。災害時は地域の方々に協力を依頼し、さらに近くの介護施設と協力体制を結び、避難場所としています。	防災対策強化として地域の方々の役割を明確にし、避難訓練への参加要請、避難場所やあらゆるサービス場面を想定しての実践的訓練、停電時対応の確認、防寒対策等への取り組みに期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様ひとりひとりの人格を尊重し、ケアにあたっている。しかし、まだまだ十分とは言えず、今後も継続して、今まで以上の職員のスキルアップが必要と考えている。	管理者は、接遇の中でも言葉遣いを重視しています。不適切に近いケアになっていないかの確認を行い、職員の統一したケアの在り方を指導しています。個人記録の扱いも十分に注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が選択できるように常に複数の選択肢を用意し、入居者様自身に決定していただくようにしている。また、思いや希望に関しては日々の生活の中で伺ったり、表情で判断したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り入居者様の希望を伺い、その方のペースに合わせてケアしているが、集団生活のため、十分とはいえない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の要望に常に耳を傾け、化粧品等本人の希望する物を探し、購入して使用していただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に力を入れ、常に利用者の好きな食べ物を伺い、提供している。また、毎日職員は入居者様と一緒に食事をしている。また、個人の状態にあわせた食事形態で作り対応している。点滴等が必要な場合は主治医をはじめ、看護師が随時対応している。	冷蔵庫や食品保管室にある食材や差し入れの野菜を活用して、利用者の要望に沿った献立を作成しています。ボランティアによる握り寿司パーティーや、誕生日には利用者の希望で赤飯が食卓に上がるなど、利用者は職員と楽しみを共有しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養計算はしていないが、水分・食事摂取量をチェックし、把握することで脱水・低栄養にならないように注意している。嚥下状態が低下している方に対しては、水分などにとろみをつけ、誤嚥をしないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。職員に歯科衛生士がいるため、口腔内の状況確認を随時している。また、必要に応じて協力歯科医に往診していただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、リハビリパンツ使用の方でも声かけし、トイレ誘導することでトイレでの排泄習慣作りに努めている。また、ご自分で尿意などを訴えられない入居者様に対しては、定期的にトイレ誘導するとともに表情や様子を観察して、トイレ誘導している。	職員はプライバシーや羞恥心に配慮し、見守りや誘導を行いトイレでの排泄支援に取り組んでいます。衛生用品利用時は家族と相談し職員間でも検討しており、最小限の使用にとどめ、家族の負担軽減に繋げています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を毎日把握している。その中で便秘症の入居者様に関しては、乳製品等を飲んでいただくなど工夫してスムーズな排泄スタイルができるよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴日は決まっているが、ご本人様の体調や希望に合わせて入浴していただいている。また、入浴日以外にもシャワードバスを使用して入浴をしていただいている。	入浴は週2回を基本として、入浴剤入りの浴槽でゆったりとした入浴支援に努めています。利用者の状態により、シャワードバスの使用や足浴での足のマッサージ、一番風呂が好きな利用者の意向に沿うなど、入浴を楽しめる場面作りに努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく睡眠導入剤を使用せず、寝れない時には、温かい飲み物を提供するなど工夫している。また、日中に短時間の睡眠を必要に応じてしていただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に薬の内容の把握や管理を行い、わからないことは主治医に伺い、指示をいただいている。また、内服に副作用等で変化があった場合はすぐに主治医へ連絡し、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外が暖かい時期には毎日散歩・外気浴等で気分転換をしていただいている。その他、畑の管理・花壇・芝生の水やり等の機会を設け生きがいのある日々に努めている。また、それ以外でも生活の中で入居者様に役割を持っていただくことで生きがいを持って生活していただけるようにケアさせていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、洋服を買いに出かけたり、海を見に行ったりと遠くまで足を運び利用者の希望にできるだけ答えるように努力している。また、農作業をされていた入居者様が多いため、ハウスや路地での野菜栽培や花壇にも力を入れている。	利用者は職員の支援の下、ホーム周辺の桜並木通りの散歩や池の鯉を見たり、花壇や芝生の水やり、ホーム敷地内でのティータイムなどで日常的に外気浴をしています。増毛町のにしん番屋まで出掛けたり、買い物ツアーなど外出行事を企画し気分転換に繋げています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は、ホームで管理しているが、外出時は自力で会計が出来る利用者様には自力で支払いをしていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	当ホームでは、電話・郵便物に関しては入居者様の希望に沿って行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に関しては、色々な装飾をし、明るく開放的で落ち着いた空間作りに努めている。また、色彩を取り入れメンタル面への配慮にも力を入れている。また、入居者様が迷ったり・不安にならないようにその方の好みの色の居室を選んでいただき、提供している。	心理学に精通している施設長の意見を採り入れ、メンタルケアを目的としたビタミンカラーがホーム全体を包み込んでいます。共用空間はゆったりとした造りになっています。居間は吹き抜けになっており、開放感と清潔感に溢れているホームで、利用者は四季を感じながら生活をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで全員がゆっくりと過ごせる広い空間となっている。ソファやテーブルを配置しており、入居者様が思い思いの時間を過ごしていただけるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は今まで使用されていた家具類・電気製品を使用していただき、安心した生活が送れるようにしている。実際に何を配置するかはご家族様とご本人様にお任せし、自由に使っていただいている。	ベットやクローゼット、暖房器具が設置されている居室には、利用者や家族の思いが込められた馴染みの家具や生活用品が持ち込まれています。壁一面に貼ってある写真は、利用者にとって安らぎとなっているようです。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別に日常生活動作を把握し、入居者様ができることはご自分でしていただくようにケアさせていただいている。その際には職員が危険性がないように見守りをしている。		